

# 市民の声を市政へ活かす

## 考え方は

津山誠心会議 田口慎一郎



質問↓市民の声を市政へ活かす考え方は。

答弁↓平成22～24年に3回の事業仕分けを実施し、施策に関する市民の評価・意識

・意見を聞く意味で一定の成果があった。来年度は、ITの活用などリニューアルして実施する予定で、当日参加する限られた市民だけでなく、更に広く参加してもらえよう方法を検討していく。

質問↓健康づくりの考え方は。

答弁↓第2次健康つやま21計画の特徴は、自助・互助・共助・公助の力を発揮し地域全体で取り組むこと。『いけないからだ講座』などの介護予防、企業ぐるみの健康づくり活動への支援、健康教室などを積極的に行う。前計画では、達成率の低かった『休養・こころの健康づくり』を強化する。

質問↓文化戦略の考え方は。

答弁↓文化活動の主体は市民であり、創作活動への支援と芸術鑑賞機会の提供、関連団体への支援、歴史遺産の保存と活用にも取り組む。要望のある美術館などの文化施設も一定の方向性を示したい。

# 議員倫理条例制定を早期に！

★緑風会 津本憲一

質問↓津山市議会議員が津山市廃棄物処理及び清掃に関する条例を破り、市民生活の安心安全を脅かす現状、津山市議会に議員倫理条例の早期制定について市長の見解は。

市長↓議会活性化調査特別委員会等において主体的に検討するものと考えている。

質問↓携帯電話は学校に来たら担任に預けるルールを先生が定めているが、預けない生徒が授業の妨げになる現状の把握は。

答弁↓校内で使用している中学生がいることは事実である。

質問↓守らない生徒を先生が黙認する。このような教育現場をどのように考えるか。

答弁↓毅然とした態度でルールを守らせ、信頼関係を築き、粘り強い指導に努めている。

質問↓先生の指導の問題、生徒の問題であり、問題解決のため生徒に問題を提案し、自ら解決策を導かせては。

答弁↓教員、生徒、保護者と協力し取り組んでいく。



# 二期を終え、二期目への課題は。

## 市長の基本姿勢を問う

★日本共産党津山市議団 末永弘之



質問↓宮地市長として、二期目を終えるにあたって、いくつかの課題が未整理であるが、今回ならぬことは、ならぬ」とされた

が、市政運営で何が「ならぬ」と思っているのか。

答弁↓駄目なのは駄目、悪いことは悪いとハッキリ言う、常に誠実で謙虚な気持ちをもって行政を進めたいとの思いである。

質問↓駅周辺整備事業・新クリーンセンター建設事業など、すべての関係者が「賛成」には至っていない。強引な事業推進は行うべきではないと思うがどうか。

答弁↓両事業に未同意者があることは十分承知している。早期に同意を得られるように誠意をもって対応したい。

質問↓総合卸売市場問題では、当初の目的である「滯納市税」は回収が不可能といわれ、さらに、鮮魚と青果が別々の市場になるのではないか。市民にとって不便になる。

答弁↓市税は可能な限り回収に努める。市場は市民に不便が生じないように、関係者と連携して可能な限り調整を図りたい。

質問↓総合卸売市場問題では、当初の目的である「滯納市税」は回収が不可能といわれ、さらに、鮮魚と青果が別々の市場になるのではないか。市民にとって不便になる。